

第二十四回 隱岐後鳥羽院大賞 短歌部門 一般の部

大賞

上皇が蹴り上げたような満月が
隱岐の島々明るく照らす

兵庫県

木内美由紀

第二十四回 隠岐後鳥羽院大賞 短歌部門 入賞作品

三枝昂之選 特選

上皇が蹴り上げたような満月が隠岐の島々明るく照らす

安田純生選 特選

停電でこたつの中に湯タンポを足で転がし置き位置決める

海士町長賞

定年でもらひし十年カレンダー尽きてこれより一年一年（ひととせひととせ）

隠岐汽船社長賞

チンドン屋のクラリネットの流れゆく路地に野良猫足どり軽し

角川『短歌』編集部賞

停電でこたつの中に湯タンポを足で転がし置き位置決める

島うた歳時記賞

ニューロンの様なす都会の線路図を眺めて経路をいくつかたどる

松籟賞

朝起きて母の調子で私の今日一日の運勢決まる

三枝昂之選 準特選

朝起きて母の調子で私の今日一日の運勢決まる

安田純生選 準特選

初デートの心得なんぞ言へはせぬ親父であるが靴買うてやる

兵庫県 木内美由紀

東京都 吉本 雄二

愛媛県 大賀 康男

東京都 古賀のり子

東京都 吉本 雄二

島根県 佐々木信実

新潟県 関根恵津子

新潟県 関根恵津子

岐阜県 三田村広隆

三枝昂之 選入 選

ニューロンの様なす都会の線路図を眺めて経路をいくつかたどる

改装を終へし離島の診療所新任医師の到着を待つ

新聞を一枚捲るがもどかしく指の乾きに老いを知る朝

茶封筒退職の日に届きたる利休朝顔種育てよと

コンビニに出かけるような気軽さでオーストラリアに孫は旅つ

眼を病める島の児からの栗届く大きな文字の便りを添えて

満月の照らす光は全方位島も家並も水平線も

征く父を送りし駅は無人駅大楠の洞に山鳩が棲む

蝉しぐれかすかに聞こえ竹林の陰に隠るる多田の渡し場

太古より繰り返しきし波を今砕き遊べる幼の両足

隠岐航路船尾に立ちて眺めやる彼方に浮かぶ雪の大山

ふり返りふり返り小犬は道を行く「まだあるくの」と問いかくるごと

大ナマコ・ヒトデつかみし小さき手が帰宅を洩る島的水族館

大寒の朝も日課のウォーキング時々傘の雪はらいつつ

利にならぬ学問と嗤ふ人もあり地質調べて地震調べて

お母さん、私、結婚しないから、てんとう虫は踊らないから

チンドン屋のクラリネットの流れゆく路地に野良猫足どり軽し

風が吹く。心が浜になっていくあなたのシャツは帆になっている

貝殻を沖（隠岐）に向かって投げ返す 島の便りを届けてほしい

定年でもらひし十年カレンダー尽きてこれより一年一年（ひととせひととせ）

島根県 佐々木信実

神奈川県 鈴木 経彦

宮城県 角田 正雄

滋賀県 赤木 和代

福岡県 世良田静江

千葉県 奥村 利夫

宮崎県 河野 正

山口県 森元 輝彦

山口県 倉谷 節子

山口県 瀬戸内 光

大分県 菊地 孝也

大分県 田口 玲子

山口県 永井すず恵

京都府 近江 瑞子

東京都 岡崎 志昂

岡山県 小橋 辰矢

東京都 古賀のり子

島根県 日下 踏子

静岡県 杉本磨佐人

愛媛県 大賀 康男

三枝昂之 選佳 作

町外れ高台にある友の墓通過するたび目礼をせり

誕生日いつも忘れて祝杯を挙げることなし卒寿近づく

さし交わす枝の間に紺碧の海の輝き桜満開

ガダルカナル忘れられない島なれど忘れ去られし島となりけり

近大の養殖マグロ味見映え天然物をしのぎたるほど

眞夏日の水分の補給自販機とふ郵便外務員に頭が下がる

「お互いに性格が良くなりました」金婚式にメッセージ添え

久びさの海の匂いを纏いつつ心弾ませ島に帰りぬ

柏手の音のみひびく隠岐神社八十三年の時の移ろい

綿菓子を捧でからめて取るやうに箒で蜘蛛の巣はらふ年の瀬

国生みの島の乳牛澄みし眼よ白き濃き乳恵んでくれる

待ち侘びし「島民劇」も佳境なりエンディング曲沁みて星降る

燃え滾る夕日を背負ひ帰り来る沖の船人みな日焼けして

幾枚の釣果自慢の額装に渡船の宿の歓談しきり

新米の届きて見れば米びつの隅に数粒古米落ちてる

院内の我の名前は十七番待合室で表示を待ちぬ

「利尻島生まれの島です」と挨拶し教師は母校の校歌をうたふ

もつともつと甘えておけば良かったね写真の中で笑ってる夫

扱いの不慣れとおぼしき白杖の人を目で追う1番ホーム

(近畿大学 略)

広島県	折口 浩三
山口県	弘兼 安雄
広島県	石田 操子
愛知県	近藤 圭介
東京都	高橋 正人
富山県	古澤 澄子
長崎県	佃 美智子
兵庫県	小畑 恵子
鳥取県	市場 和子
三重県	有田 典子
大阪府	黒木 淳子
島根県	中野 勝枝
青森県	木立 徹
島根県	花田 敦子
東京都	北島 孝子
山口県	藤本 寛
北海道	藤林 正則
東京都	荒井 千枝
埼玉県	白藤 巳玲

安田 純生 選 入選

讃岐へはたどりつつ行く島あれど隠岐には水夫（かこ）の腕頼るのみ

岐阜城を見つつ暮らせる姉様の卒寿の声は透き通るなり

綿菓子を捧でからめて取るやうに箒で蜘蛛の巣はらふ年の瀬

新米の届きて見れば米びつの隅に数粒古米落ちて

病む父は声あげ相撲聞いていた小さなラジオ耳元に置き

太陽を抱えるように羽ひろげ全身を干す中洲の川鶉

島の名は忘れたという母なれど牛突きの話で目を見開きぬ

上皇が蹴り上げたような満月が隠岐の島々明るく照らす

土を蹴り角ぶつけあふ隠岐牛の血走る目から涙流るる

久々に実家を訪えば鍵も掛けず母は正座してテレビ観ており

「利尻島生まれの島です」と挨拶し教師は母校の校歌をうたふ

幾たびも母は「ご祝儀」練習し娘の入学を祝ってくれたり

口もとの少しほころぶ夫婦びな 男雛に白き歯女雛はお歯黒

チンドン屋のクラリネットの流れゆく路地に野良猫足どり軽し

喪服着る時のみ出合う血縁の一人が今日は柩に眠る

もう我慢できぬと思ひしその時に歯科医師「すこし休みましょうか」

「長らくの…」船内放送流れ来て今日もフェリーは定時入港

B型で霜月生れの母と夫同じ病に逝きし仲良し

定年でもらひし十年カレンダー尽きてこれより一年一年（ひととせひととせ）
扱いの不慣れとおぼしき白杖の人を目で追う1番ホーム

兵庫県 藤原 紘一

岐阜県 吉田 順代

三重県 有田 典子

東京都 北島 孝子

群馬県 岸 和夫

京都府 後藤 正樹

山口県 石井久美子

兵庫県 木内美由紀

愛知県 西村 愛美

愛媛県 眞部 孝司

北海道 藤林 正則

和歌山県 浦木 逸子

石川県 橋本美津子

東京都 古賀のり子

京都府 野々村与志美

京都府 鱒本ミツ子

島根県 永海 千春

島根県 澄川 幸子

愛媛県 大賀 康男

埼玉県 白藤 巳玲

安田 純生 選 佳作

ニューロンの様なす都会の線路図を眺めて経路をいくつかたどる

誕生日いつも忘れて祝杯を挙げることなし卒寿近づく

新聞を一枚捲るがもどかしく指の乾きに老いを知る朝

ガダルカナル忘れられない島なれど忘れ去られし島となりけり

久びさの海の匂いを纏いつつ心弾ませ島に帰りぬ

夕暮れの海辺にさざ波光り出すモネの絵画のような光景

鹿児島湾の彼方の朝日子の光の帯はわれに伸び来る

インスタントラーメンは三分赤ちゃんを寝かすは八分辛抱の添い寝

院内の我の名前は十七番待合室で表示を待ちぬ

昔グレた娘が今はこんなにも親孝行と一会の爺(おほぢ)

西ノ島の湾の面(おもて)に照り映ゆる影の形も三日月である

ふり返りふり返り小犬は道を行く「まだあるくの」と問いかくると

実家なき里に帰りてちちははにご無沙汰詫びて墓洗ひけり

利にならぬ学問と嗤ふ人もあり地質調べて地震調べて

長い髪いっぽん手編みのマフラーに添はせてあつた君とそれつきり

注文品に値上げは無いかと念押せば含み笑いが電話に籠もる

つはものの戦の跡を訪へば八幡様告ぐ待ち人来ずと

風が吹く。心が浜になつていくあなたのシャツは帆になつている

今ならば呪いもネット検索で直ぐに出来ませ後鳥羽院さま

翡翠の低く飛び交ふ砥部川に田の草取りの田靴を洗ふ

島根県 佐々木信実

山口県 弘兼 安雄

宮城県 角田 正雄

愛知県 近藤 圭介

兵庫県 小畑 恵子

山口県 知 音

奈良県 梅津 豊

大分県 佐藤 政俊

山口県 藤本 寛

兵庫県 小竹 哲

兵庫県 小竹 哲

大分県 田口 玲子

東京都 橋本世紀男

東京都 岡崎 志昂

愛知県 渡辺 賢司

大阪府 間瀬 喬子

東京都 三井 瑛子

島根県 日下 踏子

東京都 有 理

愛媛県 井上由美子

青少年の部

第二十四回 隠岐後鳥羽院大賞 短歌部門 入賞作品

最優秀作品

クレオパトラの乳房はし奔りし蛇くちなはの毒の煌めき星月夜燃ゆ

愛媛県

相曾 此君

優秀作品

吃音の姉の言葉を抱きしめるために野薔薇は円弧を描く

兵庫県

宗實杏寿加